

# 「松浦の民話」を熱演

市内には、数々の民話が残されています。その民話の演劇に挑戦した2つの話題を紹介します。

## 青島で「長者と河太郎」がたろう

青島小中学校の生徒と職員、保護者約60人が、青島に伝わる「長者と河太郎」のミュージカルに挑戦しました。

これは、文化庁の「学校への芸術家等派遣事業」で星鹿町出身の劇作家、岡部耕大さんに講師をお願いしたところ、「一緒に作品をつくろう」と岡部さんが提案し、民話を素に脚本を制作。11月8日の青島小中学校文化祭で発表されたものです。

生徒や保護者などがカッパや島民を熱演し、会場に訪れた島民など約200人の観客から、大きな拍手が送られました。

### 「長者と河太郎」がたろうのあらすじ

むかしむかし、3つに分かれていた青島を、一つにしようとして島民が工事にかかった。途中、工事の邪魔をするカッパと話してみると、実は島民と一緒に工事を手伝いたいとのこと。島民とカッパの理解が深まり、協力しあったことで、みるみるうちに工事が進み、島が一つになった。



脚本を手掛けた岡部耕大さん



生徒や保護者が一体となったミュージカル「長者と河太郎」

## サークル「おばしやま」が「化けもんと山んば」

サークル「おばしやま」(新見タカ代表)は、上高野地区の女性からなるグループ。地域住民の交流を目的に、毎年上高野公民館で松浦の民話を演じています。

11月4日の第7回上高野ミニ演芸会では、「化けもんと山んば」をアレンジした楽しい舞台を披露。方言をふんだんに使ったユーモアたっぷりの熱演に、会場に訪れた人の笑い声が会場いっぱいに響いていました。

### 「化けもんと山んば」のあらすじ

松浦のある山の中に化けもんの夫婦がおった。化けもんは、美しい女性やクモに化け、村の若者を連れ去って食べようと試みるが、村人が知恵を働かせたおかげで、化けもんはいなくなつた。それから村人は安心して暮らせるようになった。



サークル「おばしやま」の皆さん



クモに化けた化けもんと若者などを演じるメンバー

### 縄文時代の終り

縄文時代の後期中ごろ以降には中国大陸や朝鮮半島から新しい文化の波が何度も押し寄せ、次の弥生文化の基礎が生まれたと考えられています。それまで台地上で生活していた人々は新しい文化が伝わり、台地上から現在では水田となつていような低い所に集落を移し生活するようになったようです。

土器では晩期前半ごろまで黒川式土器を使っています。この土器は表面に整形した条痕じょうこんがそのまま残っています。中には蝶ネクタイのような形の粘土をはりつけたものもみられます。写真の土器は今福遺跡（今福町）の標高約6・5mの地点から出土しています。その他には志佐川流域の宮ノ下り遺跡（志佐町）からも発見されています。この土器は島原半島に多くみられるもので、あるいは地域によって分布が異なるのかもかもしれません。次の夜白式土器ゆしやくは縄文土器の中でも最も新しい土器で、多くの弥生土器の中でも古い板付式とともに発見されています。市内では池田遺跡（御厨町）、栢ノ木遺跡（志佐町）から出土しています。いよいよ弥生時代の幕開けです。



今福遺跡出土の黒川式土器



## コラム

フィオナ先生  
(オーストラリア出身)

### The Season of "Kunchi" くんちの季節

オーストラリア在住の日本人の友だちが「日本の秋は祭りの季節」と教えてくれました。10月は毎日といっていいほど多くの祭りが開催され、多くは「くんち」でした。

10月9日、長崎くんちを見に諏訪神社に行き、いろいろな出し物を見ました。

松浦市内でも、各地でくんちが行われていて、私は志佐くんちと青島くんちに行きました。

志佐くんちは、志佐小の3年生と一緒に流鏝馬やぶさめを見ました。先生が「くんちは日本の伝統行事で、農作物などがたくさんとれるようにと祈るもの」と説明していました。

青島くんちは、旗が飾られた漁船に島民が乗り込みパレードが行われました。このくんちは「水産物がたくさんとれるように祈るもの」と聞きました。

オーストラリアには伝統的な祭りは少ないですが、日本のくんちには伝統があり、生活と自然に関係があると分かり、日本の歴史や文化にさらに興味がわきました。

